

市長記者会見記録

日時：2026年1月20日（火）14時00分～14時42分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：妊娠・出産～子育て期を支えるスマートフォン向けアプリを「かわさき子育てアプリ すくすく」としてリニューアルします！

<内容>

【議題】

《妊娠・出産～子育て期を支えるスマートフォン向けアプリを「かわさき子育てアプリ すくすく」としてリニューアルします！》

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。本日の議題は「妊娠・出産～子育て期を支えるスマートフォン向けアプリを『かわさき子育てアプリ すくすく』としてリニューアルします！」となっております。

初めに、福田市長から本議題について御説明いたします。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 本日は、かわさき子育てアプリのリニューアルについて御説明をさせていただきます。川崎市ではこれまで、かわさき子育てアプリを運用してまいりましたが、1月28日水曜日から、機能の拡充やコンテンツの充実を行うとともに、名称を「かわさき子育てアプリ すくすく」としてリニューアルいたします。

かわさき子育てアプリの方向性ですが、妊娠から子育てまでの必要な手続や調べものが、スマホひとつで簡単に！ プッシュ通知で健診やイベントの情報の逃さずお届け！ 「かわさき」で子どもを産み育てるすべての方がダウンロードする、毎日の子育てに寄り添うアプリとしてリニューアルをいたします。

このようなアプリになるよう、ポイント①からポイント③に記載しているような工夫や対応をして、今回のリニューアルや今後のアプリ運用を行ってまいります。

現在のアプリでは、子育てイベント・講座の検索や、地域の子育て情報の発信などの機能を提供し、累計の利用登録者数は約4万人に達しているところですが、このたびのリニューアルに先立って、保育・子育て総合支援センター利用者などから、子育てアプリに関する御意見を直接お伺いした中で、子育て情報を充実してほしい、新しい機能を追加してほしいといった御意見もいただきましたので、それらを踏まえて大幅にリニューアルしたものでございます。

次に、リニューアルの主な内容ですが、申請・届出機能、乳幼児健診手続機能、イ

ベント申込機能、情報発信の強化の4つでございます。

1つ目の申請・届出機能ですが、妊娠・出産期に行う手続をアプリからできるようにするものでございます。産婦人科に御協力をいただき、妊娠が分かったタイミングでアプリのチラシを配布し、ダウンロードしていただきます。その後、アプリで妊娠届出をしてから区役所にお越しいただき、保健師との面談後に母子健康手帳をお渡しいたします。面談時には、妊婦支援給付金の申請や出産後の出生連絡票の提出など、その後の手続についても案内し、プッシュ通知でも併せてお知らせしてまいります。

2つ目の乳幼児健診手続機能ですが、区役所で実施する集団健診について、健診時期になりますと区役所から郵送でお知らせが届きますので、受診日等をアプリに登録すると、これまで紙で記載していた受診票をアプリで入力・提出できるようになります。また、健診後には、結果の確認を紙の母子健康手帳に加えてアプリでもできるようになります。3月実施の健診から、幸区、高津区でスタートいたしまして、令和8年度中に全市展開する予定でございます。

3つ目のイベント申込機能でございますが、これまでもアプリでイベントを検索することはできましたが、居住区やお子様の年齢等に応じたイベント情報をプッシュでお知らせするとともに、今後はイベントカテゴリーなどから検索し、申込みまでアプリでできるようになります。

4つ目の情報発信の強化ですが、新たに利用頻度が高いと思われる項目について、アプリ画面にバナーを設置するとともに、子育て制度等をカテゴリー別に確認できるページを作成することにより、必要な情報に直感的にアクセスし、オンライン申請フォームまで移動できるようになるということでございます。また、相談内容等に合わせて適切な相談先を御案内できるようにいたします。

以上、リニューアル内容を機能ごとに御紹介させていただきました。

こちらは、新たな機能を備えたアプリをライフステージの各段階でどう活用していただくか、時間軸で表したものでございます。妊娠期、産前・産後、乳幼児期、それぞれの時期に必要な手続がアプリを通じて行える、また、妊娠から子育ての時期を通じて制度やイベントなどの情報を検索し、申込みまでできるようになっております。単にアプリに新たな機能を備えるだけではなく、いかに切れ目なく便利に使っていただくかというところを工夫いたしました。

アプリの効果として記載してありますけれども、窓口案内、郵送通知とプッシュ通知をうまく組み合わせることで、必要な情報をお伝えし、手続漏れの防止やスムーズな手続を支援してまいります。

子育てに関する様々な手続がパソコンを開かずにスマホでできるようにして、区役所にお越しいただく回数ですとか時間を減らすことも今回のリニューアルで目指しております。忙しい毎日を過ごす子育て中の皆さんのサポートツールになったらと思っております。

このたび、「かわさき子育てアプリ すくすく」としてリニューアルいたしました。今後もさらに便利で魅力的なアプリとなるように、継続して改修、改善を進めてまいります。改善には利用者の皆様からの御意見が重要だと考えておりますので、アプリをダウンロードしていただいて御利用いただき、その感想や御意見をアンケートフォームからお寄せいただきますようお願いしたいと思います。

私からの説明は以上です。

【司会】 それでは、ただいまの議題に関する質疑応答に入ります。なお、市政一般に関する質疑につきましては、議題についての質疑が終了後、改めてお受けいたします。

それでは初めに、幹事社様からよろしくお願いします。

【NHK（幹事社）】 幹事社のNHKです。よろしくお願いします。

こちらのアプリの機能強化ということだと思うんですけども、今現在約4万人が利用されているということですが、これと、ほぼ市内の全子育て世帯というか、子供を育てている方に利用していただきたいというところが1ページ目に書いてあります。今現在の数字でいうと、何万とか、どれぐらいまで行くというのが目安になるんでしょうか。

【市長】 未就学児童でいいですと何万人……。すみません、事務方からよろしいですか。

【こども未来局総務部企画課】 こども未来局企画課でございます。

現在、アプリの新規登録者数が年間7,500人ぐらいの数なんですけれども、これは妊娠届出の数と比べますと、大体60%ぐらいの方が妊娠届出の段階でアプリをインストールしていただいているということなんですけれども、数的にはそのような状況でございます。

【NHK（幹事社）】 ありがとうございます。これをインストールしていただくための最初のファーストコンタクトというのは、どのような場を設けていらっしゃるんでしょうか。

【市長】 先ほど申し上げたように、まず産婦人科に行かれたときにチラシなりを渡していただいて、これを登録してくださいと。妊娠届出というのをを出していただくに

は、このアプリを使ってやっていただくといいですよというのがまず一番最初のコンタクトになろうかと思います。

【NHK（幹事社）】 あと、子育て期ということですからけれども、具体的に幾つぐらいまでとかという目安はあるんですか。

【市長】 未就学児までを大体ターゲットとしております。

【NHK（幹事社）】 最後に、これはすごく利便性の高いものなんだと思いますし、なかなか外出できないような方でも、アプリ 1 つでいろんな情報をやり取りできると思うんですけれども、そういった中で、子育ての親御さんというのは結構不安になったりとかで、相談機能とか、そういったところというのは、今後つけていかれる予定はあるのでしょうか。

【市長】 相談機能というのは、現在これには入っていませんので、今後どういう形でもっと改善できていくかというのは、今後の課題かと思っています。

【NHK（幹事社）】 ありがとうございます。

【読売（幹事社）】 読売新聞でございます。ありがとうございます。3点ほどお尋ねできればと思います。

リニューアルで特に便利だと思われるのが、申請ですとか届出ですとかがスマホでできるようになったというところが便利なのかなと思うんですけれども、これまでパソコン上ではできたのか、パソコン上でもできなくて紙だけだったのが一気にスマホになったのか、その辺りを教えていただけますか。

【市長】 事務方からでよろしいですか。

【こども未来局総務部企画課】 こども未来局企画課でございます。

現在も子育て関係の大部分の事務につきましては、オンライン化ということで、パソコンのほうから御申請いただくことはできたんですけれども、制度ごとに使うオンラインの申請のシステムが違っていたところを、今回のアプリのリニューアルによりまして、「子育てアプリ すくすく」から入っていただいて、子育て関係のオンライン申請をしていただけるようになるというのがリニューアルのポイントとなっております。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。特に、周辺の他自治体と比べて、初めて行うものですとか、全国で初のもんですとか、他自治体との差別化みたいなところを教えてくださいませんか。

【市長】 お願いします。

【こども未来局総務部企画課】 全国の多くの自治体でいわゆる子育てアプリ的なもの

のにつきましては導入されているところでございますけれども、今回のリニューアルのように、情報発信から始まって、オンライン申請、イベント申込み、それから乳幼児健診の手続の一式が備わっている事例というのは、あまり多くはないと考えておりますので、未就学児までのサポートツールということで、幅広い範囲をカバーしたアプリとなっているというところが、ほかの他自治体との差別化といいますか、特徴になってくるかなと思っております。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

最後に、市長に伺いたいんですけれども、御自身も子育てをされた経験から、こういった手続が大変だったですとか、奥様に役所にわざわざ行ってもらうことが、ここが大変だったという御自身の御経験と、それからそれを踏まえて使ってほしいという呼びかけを改めてしていただけますか。

【市長】 スマホ1つでというのは、私の時代ではそうではなかったので、そういう意味では、手続、区役所に行かなくちゃいけないというのがこれでも少し減ることになりますし、何よりも妊娠から、あるいは出産前後、大変なときにいろんなものをやらなくちゃいけない、役所に行かなくちゃいけないというのは大変ですので、そういった意味では、手元でいろんな申込みができたり、手続ができるというのは非常に画期的だなと思っています。

それと、お知らせしたいことをこちらからお伝えしなければという、このタイミングでというのがプッシュで通知されてくるというのは、とてもうれしいと思います。あ、忘れてたということがないようにとかということもありますし、イベントなどでも、こういうものがあるんだということを幅広く知っていただけるというのは、すごくいいことだなと思っています。御相談なんかは、栄養、食事のことだとかが結構多いと聞いていますけれども、そういう講座みたいなものもここでやっています、いつからやりますというのが簡単に分かるので、それも申込みまでできるということですから、非常に便利なものになると期待しています。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。ですので、改めて使ってほしいという。

【市長】 はい、ぜひ。全ての子育てされている方に使っていただきたいと思っています。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

【司会】 幹事社様以外で御質問をお願いいたします。東京新聞さん、お願いします。

【東京】 東京新聞です。

今回のアプリリニューアルにかかった事業費を教えてくださいませんか。

【市長】 事務方からでもよろしいですか。

【こども未来局総務部企画課】 こども未来局企画課でございます。

今回のリニューアルにつきましては、約3,500万円の経費がかかっております。

【東京】 これは、令和7年度予算ということでしょうか。

【こども未来局総務部企画課】 はい。

【東京】 あと、妊娠届出はこれまでもオンライン上でできたのか、今回から新しくオンライン化されたのか。例えば、出生届なんかはさすがに区役所に行かないと駄目なのかとか、そこら辺を教えていただいてもよろしいでしょうか。

【こども未来局総務部企画課】 妊娠届につきましては、現状、国のマイナポータルを使った申請ができるようにはなっておりますけれども、マイナポータルにログインして実際にオンライン申請をしていただいている方といたしましては、川崎市内の状況といたしましては、割合としては0.2%となっております。そこが今回、アプリの機能として、アプリそのもので御申請いただけるというところで、そこはかなり便利になってくるところだと考えております。

【東京】 あと出生届。

【こども未来局総務部企画課】 失礼いたしました。出生届につきましては、本市ではまだオンライン化自体がされておきませんので、このアプリの機能としても実装はしていません。

【東京】 ありがとうございます。例えば、このアプリを使わないと届出ができないみたいな、例えば外国人の人とか、どうしても取り残されやすいのかなと思うんですけど、アプリを入れないと情報が入らない、イベント情報が入らず損しちゃうというのはあると思うんですけど、すごく機会損失になるということはないのでしょうか。

【こども未来局総務部企画課】 スマートフォンを使わない方なども一定数いらっしゃると思いますので、窓口での手続は当然できるようにいたしますし、このアプリにつきましては、ウェブのほうからパソコンでも操作していただくことが可能となっております。

【東京】 ありがとうございます。あと、聞きかじったような話で申し訳ないんですけど、母子手帳のアプリ化みたいなことを求める声も割と多いのかと思うんですけど、このアプリについては、母子手帳のアプリ化とはまたちょっと次元の違う話という受け止めでよろしいのでしょうか。

【こども未来局児童家庭支援・虐待対策室母子保健担当】 こども未来局母子保健担当でございます。

電子版母子健康手帳につきましては、現在国がガイドライン等をつくるということで進めておりますが、詳細はまだ下りてきておりません。本日発表させていただきます「すくすく」を使いますと、集団健診のところにしましては、お母様が手入力で入れなくてもそのままアプリのほうに記録が入ってくるということで、目指すべき方向に近づいているかなと思っているところでございます。

以上でございます。

【東京】 ありがとうございます。

【司会】 神奈川新聞さん、お願いします。

【神奈川】 神奈川新聞です。

先ほど年間7,500人ぐらいが利用、新規に登録して、60%ぐらいが市の全体の割合で登録するというお話だったんですけど、リニューアルによって何%ぐらいまでに上げたいみたいな目標値と、先ほどの3,500万円は多分初期投資だと思うんですけど、ランニングコストとしてはどのくらいかかるんでしょうか。

【こども未来局総務部企画課】 まず、登録者数の目標でございますけれども、計画上、新規登録者数、年間で9,400人以上という設定をしております、これは割合で申し上げますと、大体95%という数でございます。

またもう一点、今後のランニングの経費についてでございますけれども、こちらのアプリにつきましては、クラウドサービスを利用した形でのアプリの運用ということになりますので、毎年利用料を支払っていく形になってまいりまして、今後新たに機能として盛り込みます、乳幼児健診のほうの機能で使いますタブレットのリース代も含めまして、年間3,500万円程度になると見込んでおります。

以上でございます。

【神奈川】 これは未就学児までとおっしゃいましたけれども、この枠というのは今後拡大する見込みとかはあるんですか。というのは、例えばうちの息子の予防接種とかも、結局忙しい親って忘れちゃったりして、結局書類もどっか行っちゃったりしてすごく大変なことになったりとかするのが、プッシュで来たらすごく楽だなと思ったんですけど、その辺、今後の策として何か考えられていることはあるんでしょうか。

【こども未来局総務部企画課】 イベントのお知らせにつきましては、未就学に限定したイベントだけではなく、就学期のお子様を対象としたイベント等につきましては、こちらのアプリを利用しながら情報発信を行ってまいりたいと考えておりまして、今後、リニューアルを1回して終わりということではなく、継続的にバージョンアップはしていきたいと考えておりますので、その中で、就学後のお子様に対してどのよう

なサービスが提供できるかということも検討を進めてまいりたいと考えております。

【神奈川】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、議題については以上とさせていただきます。

【市政一般】

《物価高騰対策について》

引き続きまして、市政一般に関する質疑をお受けいたします。よろしければ、初めに幹事社様からよろしくお願いいたします。

【NHK（幹事社）】 NHKです。

これまでの会見でも質問が出ていますけれども、重点支援地方交付金、いわゆるおこめ券の交付金についての活用策というのは、その後、進展はありましたでしょうか。

【市長】 詳細まではまだ発表に至らないんですけれども、活用方策について検討を進めておりまして、まず物価高騰の影響を強く受けている方を支援していく事業、もう一つがプレミアムつき商品券など、幅広く市民の皆様に食料品等の支援ができる事業、この2つを軸に現在最終の詰めを行っているところでございます。

【NHK（幹事社）】 物価高騰を強く受けているというのは、いわゆる限定した対象者に向けてということですか。

【市長】 そうですね、全ての市民という形ではなくて。

【NHK（幹事社）】 そこは、ある程度スピーディーにということも両立してでしょうか。手続的に。

【市長】 かなりこの重点交付金って、1人当たりの額が相当自治体によって違うんです。本市の場合ですと、神奈川県内でいくと最低の額になっていまして、食料品の部分、活用枠でいきますと、1人当たり2,100円という形になっていますので、そう考えると、いかに有効に、限られた財源の中で手だてを打っていくかということになりますので、そうした中で、全市民にということではなくて、一定程度やはり強く影響を受けている世帯を中心にということを考えております。

【NHK（幹事社）】 2種類ありましたけど、いずれも食料関係ということになるんでしょうか。

【市長】 食料関係、例えばプレミアムという形になりますと、食料品に限定しないものですから、そこは幅広い対象になるかと思えます。

【NHK（幹事社）】 最後に、その時期、いつそれは政策として……。

【市長】 オープンにということですか。

【NHK（幹事社）】 はい。

【市長】 なるべく早い時期とは思っておりますけれども、少なくとも次期会見のときには、しっかりとお示しできるようにしたいと思っています。

【NHK（幹事社）】 ありがとうございます。

《衆議院議員総選挙等について》

【読売（幹事社）】 読売新聞です。

間もなく衆院選の選挙が迫っているかと思うんですけれども、この時期の解散と、それから衆院選になっているということに対して、自治体にもかなり負担があるかと思います。まずその受け止めと、それから、現実的に川崎市として、選挙事務すとか、物理的に間に合うのだろうかという懸念、その辺りちょっと教えていただけますでしょうか。

【市長】 この時期になって、本市においては市長選挙が終わって、まだ残務が残っている中での今度の選挙ということになりますので、相当やはり選挙管理委員会の職員の健康面でも非常に厳しいなと思っていますので、そういったところは懸念ではありますけれども、滞りなくできるようにしっかりと準備をしていただきたいと思いますと思っています。

今朝も定例局長会議で選挙管理委員会事務局長から報告がありましたけど、辛うじてポスターの掲示板は間に合うという形でありましたけれども、いわゆる選挙の入場整理券、それについては、今回は期日前投票が始まるときにはなかなか間に合いそうもないということで、ずれ込む見通しだということでもあります。

ですから、期日前投票でも、入場整理券がなくても投票ができるんだということを、ぜひ報道各社の皆さんにも御協力いただいて、そういうことができますということをお伝えしていただいて、私どもも積極的に広報してまいります。投票率が上がるようにしっかりと広報していかなければならないと思っています。いずれにしても、非常に厳しいスケジュール感だと思っています。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。幹事社からは以上です。

【司会】 では、幹事社様以外からの御質問をお願いいたします。朝日新聞さん、お願いします。

《衆議院議員総選挙等について》《特別市について》

【朝日】 どうも、朝日新聞でございます。

この時期の解散ということになりまして、新年度予算案の編成への影響、給食の無償化についても4月スタートができなくなって、各自治体、補正でそれぞれ対応して

いくということになるんですけれども、自治体の予算編成への影響を教えてくださいたいのと、あと、昨日、地方制度調査会が始まりまして、大都市制度の在り方について議論が始まったわけなんですけれども、昨夜もコメントをいただきましたけれども、改めて会見で、調査会への希望を聞かせていただければと思います。

【市長】 ありがとうございます。まず、国での予算議決が年度を超えてしまうことの影響についてなんですけれども、これまでも本市の議決は、常に国より大体早いということでありまして、これまでも平成25年時に、5月に予算が通るということも経験しましたが、そのときも基本的には滞りなく執行していったということでありまして、今回もそのような、大混乱にならないようにしっかりとやっていくということになると思います。それほど大きな支障にはならないのではないかと考えております。

それから、地方制度調査会のことでありますけれども、昨日、総理に代わって官房長官が御出席されて、諮問内容を発表されたということでありましたけれども、これまで本市をはじめ指定都市市長会として、特別市を含む大都市制度の在り方についてぜひ調査審議をというふうに要請してまいりましたが、そのことが今回含まれているということは非常に感謝しておりますし、大変意義深いものだと思います。

これから専門小委員会で大都市制度の話も議論されていくと思っていますので、月一、二回程度開かれて、学識中心にやっていくということでありまして、ぜひ期待をしたいと思っておりますし、全国市長会を代表して松井広島市長がメンバーに入っておりますけれども、指定都市出身の会長でもありますので、そういったところでも発言をしていただきたいなと思っています。メンバー、公表になっていますもんね。

《衆議院議員総選挙等について》

【朝日】 朝日新聞です。

あと、衆院選の対応なんですけれども、選挙応援については、これまでどおりされないという理解でよろしいのでしょうか。特別市のことを取り上げたいという国民民主党の候補もいらっしゃるようなんですけれども。

【市長】 現時点での選挙応援については、現時点では考えておりません。

【朝日】 ありがとうございました。

【司会】 東京新聞さん、お願いします。

【東京】 東京新聞です。

昨日、多摩市長、小田原市長、杉並区長、中野区長、世田谷区長が連名で緊急声明を出されて、その内容としては、日常業務に加えて国の経済対策への対応、選挙事務を短期間に集中されることで、各自治体での行政運営とか職員の働き方に深刻な影響

を及ぼしかねないとして、自治体の責任者として強い問題意識を抱いているということとを訴えられて、今回の事態を契機として、政権による解散権の行使の在り方、乱用を防ぐための制度や議論を社会全体で改めて行うことを強く求めますという声明を出されたんですけど、市長としては、今回の衆院選に対して、自治体の首長としてどういうふうな意識を持たれているのか。この5人の首長に考え方としては近いのか、そこまでは思っていないのか、どういうふうな受け止めでいらっしゃるのでしょうか。

【市長】 自治体の長としては、非常にこの忙しい時期にという気持ちは共有するところはあるんですが、しかし、解散権のことについてまで自治体の長として触れていくというつもりは、私はございませんという受け止めでございます。

【東京】 この声明の冒頭というか、声明を出したので、賛同される首長を求めたいというふうに世田谷区長のツイッターに書かれていたんですけども、現時点では、川崎市長としてはここに乗っかるというか、賛同するつもりはないということによりよいのでしょうか。

【市長】 そうですね。

【東京】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問はございますでしょうか。共同通信さん、お願いします。

【共同】 共同通信です。

おそらく次の会見までに衆院選が始まるのかなと思うんですけども、どういった議論がされてほしいかというのを、何か御意見あれば伺いたいと思います。

【市長】 そうですね、これからの日本の成長をどういうふうな形でつくっていくのかという議論を大いにやっていただきたいなと思っていますし、また、結構減税の話だとかというのがかなり言われておりますけれども、減税する財源のことを含めて、これまでの会見でも言っていますが、とにかく給付だとか減税だとかという話というのは、すごくコロナ禍以降多いので、責任ある——責任あると言ったら、責任ある積極財政みたいな話になっちゃいますけど、責任ある財政議論と経済との関係というのを各政党に大いに議論、私たちに見える形でしていただきたいなと思っています。本当に出す、ギブ・アンド……、またポスターみたいな話になっちゃう。ギブ・ギブ言っているだけでなく、どうやって成長して潤していくかということについて、しっかり議論していただきたいなと期待しています。

【共同】 今、給付とか減税というふうにおっしゃったと思うんですけども、何か念頭に置いているものはございますか。恐らく関心が高いのは食料品の消費税の話かなと思うんですけども、市長が御発言されたときに何か念頭に置いたものがあれば

教えてください。

【市長】 いや、念頭にというよりも、要は耳触りのいいことばかり言わないでもらいたいと思っていてまして、選挙のときになると減税の話だとか、何々手当を出しますとかという話ばかりが躍るんですけど、そうじゃなくて、どういうふうに例えば少子化対策をやるかとか、経済成長をするためにどこを伸ばしていくのかとか、そういう将来への考え方をしっかり示していく必要があるんじゃないかなと。社会保障制度についても、というふうに思っています。

当然私としては、持続的な成長を遂げていくための自治体の在り方ということについても、政治のほうで、地制調は始まりましたけれども、各政党とも地方の人口減少社会における持続的な行政サービスをどうやって提供していくのかという自治体の再構築の在り方についても、ぜひ議論していただきたいと思っています。

【共同】 改めてになるんですけれども、先ほど期日前の話もありましたように、投票者、有権者のほうに呼びかけといいますか、どういうふうに判断を、どういった投票行動を心がけてほしいかというのを改めて伺えますか。

【市長】 大変我が国にとって大切な選挙だと、方向性を大きく決めていく選挙になると思いますので、ぜひ一人一人の意思を投票という形で国政参加するというのは、ぜひしていただきたいと願っております。

【司会】 ほかに。神奈川新聞さん、お願いします。

《ふるさと納税について》

【神奈川】 度々聞いているんですけれども、2025年度のふるさと納税の話で、まだ1、2、3月残っていますけれども、川崎市としては、また過去最高記録を更新するという形になりましたけど、改めてそこへの思いと、結果的に流出のほうも著しく伸びていて、本当、担当者の言葉を借りれば、ないものだと思ってやっていかなきゃいけないという、やっぱり税の在り方の話じゃないですけれども、川崎市に暮らす市民にとっては、いびつな構造になっているのかなと思うんですけれども、改めてその辺の、まだ閉まってないですけれども、25年度の結果というか、今の現状と今後の課題みたいなものについて、改めてお考えをお聞かせください。

【市長】 ふるさと納税の課題点については、これまでも申し上げてきたとおりでは正されなければならないと思っていますが、今回私どもが訴えてまいりました、いわゆる特例控除の上限額設定について一定されたということについては、非常に受け止めていただいて、改正につなげていただいたことについては感謝をしたいと思っています。今後もこのような方向で、是正されるべきものにしっかり取り組んで、引き続

き取り組んでいただきたいなと思っています。

課題感についてはずっと申し上げてきているとおりですから、引き続きしっかりやるということだと思います。

【神奈川】 喜んでばかりはいられないという形ですか。

【市長】 本当にそうでした、御質問いただいたとおり、38億という形で、前年度に比べて177%に増ということになっていますが、流出額もその分上がってきていますので、非常に影響額というのは、毎年これだけの額が本来市民に使われるべき税金が流出しているというのは看過できない状況だと思っていて、そのために寄附受入れというものについても、これからもしっかり強く取り組んでいきたいと思っております。

【神奈川】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問はございますでしょうか。時事通信さん、お願いします。

《特別市について》

【時事】 時事通信社です。

ちょっと前後になってすみません。特別市制度の件ですけれども、地制調ですね。昨日うちの報道によると、広島市長、市長会の会長が、大都市制度については、多様な制度の中から適切な制度を選択できる仕組みの検討が重要というふうに強調されたということなんですけれども、要するに、これも何回も聞いていますけど、特別市のいわゆるいろんな制度がある中で、その一つとして検討してほしいという。

【市長】 はい。私ども多様な大都市というふうに言っておりますので、私どもが今お願いしているのは、特別市という制度をつくって、その中から政令指定都市にとどまるところもあれば、特別市に移行するところもあれば、あるいは、いわゆる特別区のほうにということもあろうかと思っておりますので、そういった選択ができる環境にしっかりと整えていただくということがとても大事なことだと思っています。

さっきも申し上げましたけれども、人口減少で大変なことになっているということから、一極集中から多極分散型の成長の国家にという形での大都市が果たすべき役割を、制度上しっかりとつくり上げる必要があると繰り返し申しておりますし、訴えていきたいと思っています。

【時事】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問はございますでしょうか。読売さん、お願いします。

《物価高騰対策について》

【読売（幹事社）】 すみません、度々読売新聞です。

改めての確認なんですけれども、重点支援地方交付金は、おこめ券は配らないという理解でよろしかった…。

【市長】 はい。

【読売(幹事社)】 おこめ券を配らない理由について、改めて教えていただけますか。

【市長】 何をやっても手数料はかかるんですけれども、それにしても手数料、高くなっちゃうよねと、実の部分が薄くなっていくのは何とか避けたいということもありますし、物価高騰はお米だけではないので、そういう意味では、市長への手紙でもおこめ券はやめてくれとかという声も結構あるんですね。その声を反映したわけではありませんが、より、先ほど申し上げたように、重点的に支援して、影響が大きいところと、幅広く、やっぱり物価高騰は効いていますので、幅広い層に還元できるようにしていくということですね。

【読売(幹事社)】 ありがとうございます。そうしますと、すみません、追加で。物価高騰の影響を強く受けている人たちへの対策としては、現金支給などではなくて、減税のようなものを想定されているということでしょうか。

【市長】 減税ですか。いえ、そうは考えておりません。

【読売(幹事社)】 現金支給とまでは。

【市長】 という形になろうかなと思いますけれども、そのことについて、詳細については今検討中ということであります。

【読売(幹事社)】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問はございますでしょうか。神奈川新聞さん、お願いします。

《菅義偉元首相について》

【神奈川】 すみません、地元紙として、菅義偉さんが今回の衆院選を機に引退ということを発表されましたけれども、市長は何かつながり等々あったらその辺を教えてください。引退についてどう思うかみたいなのが何かありましたら教えてください。

【市長】 特に、菅先生は横浜市議からなられたということで、政令市の状況をよく御理解いただいている、そしてそのことについて様々な改革をやられた方でもありますし、特に川崎市、私が市長になりましたときにはもう官房長官でいらしたので、多摩川スカイブリッジができるということに先鞭をつけていただいたのも菅先生ですし、また、臨海部のことについて、これからの再生をどうしていくかということについて、非常に深い見識と、そしてリーダーシップを発揮していただいたと思っています。そういう意味では、私どもにとっては非常に強い味方だったと思いますので、とても残念であります。これからも御指導いただきたいと思います。

【司会】 ほか、御質問はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして定例市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当